

第8回 年少者日本語教育研究フォーラム

【日 時】 2018 年 3 月 21 日(水) 13:00~17:00

【会 場】 早稲田大学・早稲田キャンパス 22 号館 207・208 教室

【主 催】 「移動する子ども」フォーラム・早稲田こども日本語研究会



【プログラム】

	時 間	内 容
	13:00-13:05	第一会場 207 「ようこそ！」 川上 郁雄（早稲田大学大学院教授）
		第一会場・207（発表 20 分＋質疑応答 15 分）
研究 発表	13:05-13:40	少数散在する「移動する子ども」は自らのアイデンティティとどのように向き合っていたのか —「移動する子ども」である Y の語りを事例として— 佐々木ちひろ（名古屋大学大学院博士課程後期課程） 本発表において、少数散在する「移動する子ども」の自らのアイデンティティへの向き合い方を、「移動する子ども」である Y の語りから個別的にとらえ、論じる。Y にライフストーリーインタビューを行い、その語りを、日本に移動後の「移動する子ども」が Y だけの環境および転居・転校後の「移動する子ども」が他にもいる環境での自らに対する意味づけの視点から分析し、少数散在する「移動する子ども」の自らのアイデンティティへの向き合い方を考察する。
	13:45-14:20	大学進学を目指す JSL 高校生をどのように支えるのか 張 夢卉（早稲田大学大学院博士後期課程） 発表者はこれまで、神奈川県にある白鵬女子高等学校での放課後日本語支援の場に携わってきた。本発表では 2017 年 8 月 25 日から 2017 年 12 月 1 日までの間、大学入試に取り組む生徒と行なった活動について報告する。考察の結果、大学進学に取り組むという一連のプロセスを通して、生徒は自身の生を見つめ直したり、将来の生き方を考えたり、複数の言語資源を持つ主体であることを学ぶことができたと考えられる。
	14:25-15:00	敬和学園高校の日本語指導 これまでとこれから 臼杵 由美子（敬和学園高等学校日本語科） 今年度創立 50 年という節目の年を迎えた私立敬和学園高校(新潟市)は、小人数教育、個人の尊重、キリスト教に基づく人格教育、国際的視野に立つ教育、労作教育、寮教育を教育の柱としている。これらの教育モットーを持つ本校では留学生の受入れや海外研修、平和学習など様々な学びを通して、多様な価値観を認め合うことを大切にしてきた。本校での日本語指導を必要とする生徒たちとのこれまでの実践とこれからの課題をまとめてご報告したい。
		休憩(10 分)
特別 企画	15 : 10-16 : 20	第二会場 202、203、205 「先輩の話を聞こう・私のこれまでとこれから」（仮題） 高校生、高校卒業生から、お話を聞きます。
		休憩（5 分）
		第一会場・207
	16 : 25-17 : 00	韓国の中高等教育における日本語作文教育の課題 鄭潤静（早稲田大学大学院博士後期課程） 国際交流基金によると、2015 年の韓国における日本語学習者数は、556,237 人であるが、そのうち中高等教育における学習者数は 451,893 人で全体の 81.2%を占めるとされる。年々日本語学習者が減少する韓国で、今なお最も多くの割合を占める年少者日本語教育であるが、その日本語作文教育はあまり注目されてこなかった。本発表では韓国の高校で日本語作文教育がどのように行われているのかを、教育課程や教科書を分析して考察する。
	17 : 00	「また来年会いましょう」 池上摩希子（早稲田大学大学院教授）

*みなさまのご参加をお待ちしております。

